第39期 園芸学科通信 平成30年7月31日（火曜日）

園芸学科通信

第22号

レイカディア大学・米原校

平成29年度後期必修講座である『滋賀県レイカディア大学米原校大学祭』が平成30年7月25日から27日までの3日間、滋賀県立文化産業交流会館イベントホールに於いて開催されました。

レイカディア大学における『大学祭の位置づけ』については、必須講座として「学校行事」としての一環であり、学習成果の「発表の場、実践の場」となることと決められております。

❶『大学祭のねらい』について

①日頃の学びを発表・実践しそれらを通じて学習をより一層深め、地域での活動につなげる。

②ご家族や地域の方、大学に関心を持つ方にも活動を知っていただく。

③目的を理解し、企画や準備を含めてイベント運営を体験しながら学ぶ。

④他学科の卒業生や地域との交流を深める。とりわけ卒業生との交流として、それぞれの発表や実践を見聞きし、お互いの活動を理解し学ぶ。

❷『大学祭取り組みの方向性』について

①発表については、日頃の学習の成果を、展示発表やステージ発表を行う。実践については、日ごろの学習成果を活かした実践の場を設け、学生自らが無理のない範囲で、体験コーナーや一般参加型の催し（体力測定・竹細工づくり・花苗のプレゼント）で自主的に表現する。

③地域との交流をより深めるために大学祭の全期間を公開とすること。

❸『大学祭の構成』について、

・第1日（必修講座）については、展示の準備と展示の発表で、学習成果をクラスごとに発表する。

・第2日（自主活動日）は、学習成果を活かした実践の場とする。

・第3日（必修講座）は、ステージ発表（学習成果の発表）で、いずれも3日間を通じて、卒業生の活動発表（展示・実践）やクラブ活動の発表も含めて構成されています。

❹『大学祭の役割』については、

①学生については、文化委員が中心となって、具体的な企画・運営を行い、文化委員会の決定事項に基づいて全学生が協力し準備をすすめる。

②事務局については、大学祭の趣旨を提示し、外部との諸調整等を行う。

③サポート隊については、卒業生の活動発表についての協力を行う。その他、学生や事務局の依頼に基づきサポートを行う。

39期園芸学科生一同は、事務局が指示した内容を踏まえ、上野清治文化委員長を中心に、大学祭までの実行スケジュール、予定表を作成し、数回の会合の中で決められた内容にもとづき準備に取りかかりました。

まず、大学祭をスムーズに運営するために、文化委員を中心に役割分担を行いました。その内容は、学習成果・企画運営・広報・余興の4項目に分け、項目ごとに、クラス活動や休憩時間を利用して人選を行いました。

①学習成果（5名）：上野文化委員長・水原学科長・北村・北川・藤本

②企画と運営（8名）：山川文化委員・須田・杉村・今堀・大町・桂田・森・川﨑

③広報（6名）：宇野文化委員・廣田・田中副学科長・北川・北村・北村・藤本

④余興（5名）：鎌田文化委員・前田・川村・清水・植谷

以上のように役割の分担を行い、決められた項目ごとに諸準備スタートがしました。また、企画と運営に向けての取り組みに関しては、「作品の展示や体験コーナー及びプレゼントの企画と制作」に取り組むことにしました。

体験コーナーにおいては、「竹の節の部分」を利用し、色を塗って「親カエル、子カエル、孫カエル」の表情を作って「無事帰る（カエル）」を作成してもらうための竹を準備しました。また、プレゼントについては、花の苗（ポーチュラカ）を準備しました。これで大学祭の準備は整い本番を待つのみとなりました。

平成30年7月25日、大学祭の会場である滋賀県立文化産業交流会館イベントホール前には、39期園芸学科生が集合しました。

メロン栽培、イチジク栽培、トマト栽培や寄せ植えなど、各自が事前に作った作品を展示するために持ち寄り、会場に運んであらかじめ決めておいた場所に展示しました。

大学祭は、7月25日、26日、27日の3日間開催されました。大学祭のねらいについては、『日頃の学びを発表・実践しそれらを通じて学習をより一層深める。在校生と卒業生が互いの活動を理解し学び合う。ご家族や地域の方、大学に関心をお持ちの方にも活動を知っていただくこと』であることから、39期園芸学科は、『レイ大・二年間の集大成を今ここに！』をテーマにしました。

会場内の展示ブースでは、毎月発行している「園芸学科通信」の創刊号から第9号までの縮小版及び第10号から第21号の展示をはじめ、各自が丹精を込めた作品を並べました。

竹細工による「カエル（無事帰る）」を作る体験コーナーでは、親子連れの参加が多く、特に、園芸学科生と一緒にノコギリやハサミを使ってカエル作りに取り組んだ親子が作業する様子を、テレビ局が撮影することなど、みんな終始笑顔で取り組んでいました。また、来場者へのプレゼントコーナーでは、39期生が育てたポーチュラカや40期生が育てた花の苗などをプレゼントとして配布しましたが、受け取った人には大変好評で笑顔で受け取っていただきました。

大学祭の最終日は、小劇場で開催されました。イベントホールで出欠確認の後、小劇場に移動、この日は必修講座で「ステージ発表」を行いました。

発表は、午前10時、40期園芸学科：九里さんの司会で始まり、最初の発表は40期園芸学科寺嶋さんの「樹木に学ぶ～剪定の基本、講演から庭園へ～」から始まりました。その後、39期園芸学科が行った課題学習への発表と続きました。

これまで園芸学科では、課題学習として5つのグループに分かれ、テーマを決めて取り組んできましたが、その内容を発表しました。以下が、園芸学科が発表した内容です。

①かくれ里教林坊庭園の整備（サツキ庭園の剪定、竹林と竹垣の整備）
発表：川崎　勝

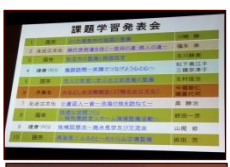
②桜並木の整備と庭園剪定（犬上川沿岸疎水の桜並木路及び甲良町グループハウス・けんじゅの家・庭園の整備
発表：北川　勝美

③先人の賢者に学ぶ近江孤蓬庵の整備（魅力の庭園で園芸技術を生かそう）
発表：北村　佳治

④快適な空間つくり（特別養護老人ホーム環境整備活動）
発表：鎌田　一彦

⑤再発見！ふるさと（おから山古墳景観形成）
発表：廣田　茂

各テーマに取り組んだ発表者は、課題学習を実施する際の取り組み経過や作業を行う際の感じたことをまとめ、写真や巧みな話術を駆使し、持ち時間内で発表しました。



選択講座

■ 郷土の庭園鑑賞と管理実習 ■

講師：北村　正隆氏

平成29年度後期選択講座である「校外学習・郷土の庭園鑑賞と管理実習」を北村正隆講師の指導のもと、清瀧寺德源院に於いて実施しました。

今回の研修は、平成30年7月17日滋賀県米原市清滝にある京極氏の家の菩提所「德源院」で行われました。

校外学習の際には、あらかじめ決めていたとおり、脚立などの道具類を車で運ぶ者、居住通学地域にいるメンバー数人づつがグループになり、自動車に分乗して向かいました。

清瀧寺德源院は、鎌倉時代から戦国時代にかけて北近江を支配した佐々木京極氏の菩提寺で、京極家の弟枯盛衰の面影が今も残るお寺です。

今回、庭園鑑賞をする庭園は、池泉回遊式庭園で滋賀県指定の名勝庭園です。

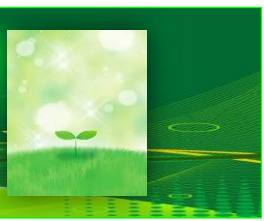
作業に掛かるにあたり、池泉回遊式庭園を前に、北村講師から剪定方法やこの日は真夏日の厳しい天候でしたので、熱中症予防のために、こまめな休憩と適度の水分補給をするように注意事項がありました。

作業をする庭園は、全体が急な傾斜になっており、大木や名木も多く、庭石も多く配置されていることから、足元に細心の注意を払っての作業でした。枝葉を伸ばし、大きくなりすぎ庭石を被っているさつき・サザンカ・アセビ等については剪定で樹高を低くしました。

39期生とサポート隊は、剪定から剪定後の後片付けに至る作業を協力した結果、けが人もなく、午前中に終了することができました。

編集後記

平成30年7月31日発行の「第39期園芸学科通信第22号」をお届けします。

今月は、後期履修計画最大のテーマ「大学祭」が実施されました。3日間にわたって行われましたが文化委員長をはじめ園芸学科の皆さんが一丸となり大成功であったと思っています。コツコツと竹を削り、丹精込めて水をやりで成長を見守った努力の賜物だと思います。大江先生や松原先生の特別授業もあり、大変有意義な大学祭でした。（佳）

滋賀県レイカディア大学・米原校
園芸学科・情報委員会　発行